

名古屋大学附属図書館2014年秋季特別展

# 時を超える贈り物

所蔵資料が語る  
学びの世界



名古屋大学附属図書館2014年秋季特別展

# 時を超える贈り物

所蔵資料が語る学びの世界



発行日 2014年10月18日

編集・発行 名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町B3-2(790) TEL: 052-789-3678(受付) FAX: 052-789-3694

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp> ©名古屋大学附属図書館

10月18日(土)～11月6日(木) 9時～17時

名古屋大学中央図書館 2階ビブリオサロン

## 時を超える贈り物

所蔵資料が語る学びの世界

附属図書館の所蔵コレクションから、「学び」にちなんだ資料をご紹介します。  
江戸期の寺子屋で使われた書物や明治期の医学教材、様々な分野の秘伝書や指南書も展示します。  
勉強や技能習得に励んだ人々の熱意をぜひ感じ取ってください。

## I 時代を映す教材

現在のように一人一人に教科書が行きわたらなかった時代に使われた教材にはどんなものがあったのでしょうか。江戸時代の学びに使われた書物や明治時代に小学校で使われた教科書、掛図や医学教材等、時代を映す教材を集めました。当時の“学び”の雰囲気をお楽しみください。

**医学教材** 当時の医学研究及び講義の雰囲気が感じられる資料です。

### 1. プレバート見本 奈良坂源一郎作 1点 作成年不明(医)

明治14年(1881)、愛知医学校の解剖学、生理学、組織学の教諭として赴任し、40年間教鞭をとった奈良坂源一郎(1854~1934)が作成したプレバート見本です。



1. プレバート見本

### 2. 『乳癌手術の図』長束宗元 1軸 1880年代前半(医)

### 3. 小倉開治講義録(眼科学) 1冊 明治26年(1893)(医)

### 4. 卒業アルバム 愛知県立医学専門学校 1冊 明治42年(1910)(医)

### 5. 顕微鏡 1点 昭和2年(1927)(医)

### 6. ローレツ自筆のドイツ語格言 1枚 明治13年(1880)(医)

## 掛 図

掛図とは、教室の壁や黒板に掛けて多くの学生が一度に見ることができるよう、標本・数式・地図・絵図・文字等を描き掛軸状に装丁された教材です。

### 7. 『人身生理図』甲号乙号 改訂増補第5版近澤勝美編画

1軸 明治34年(1901)刊(医)



7. 『人身生理図』甲号

### 8. 『博物図』第二 文部省編 1軸 明治6年(1873)刊(教)



8. 『博物図』

※資料名のあとの(医)(教)(経)はそれぞれ医学部分館、教育発達科学図書室、経済学図書室所蔵を示します。特に記述がない場合は中央図書館所蔵です。

9. 『細胞分裂』2軸 刊年不明(医)
10. 『動物第一 獣類一覽』文部省編 1軸 明治6年(1873)刊(教)
11. 『大日本帝國古今貨幣之圖 教育参考資料』1軸 昭和11年(1936)刊(経)
12. 『柴田週期律活用圖表』1軸 昭和12年(1937)刊(経)

## 書 物

### 13. 『御成敗式目』北条泰時編 1冊 刊年不明(教)

御成敗式目は、貞永1年(1232)に制定された鎌倉幕府の基本法典であり、51ヶ条からなります。文章が平易なこともあって初学者の素読や手習の教材としても広く用いられ、寺子屋の教科書としても普及していました。挿絵や手習の心得、いろはうたなどを含む資料には、手習用としての工夫がみられます。



13. 下段『御成敗式目』  
上段いろはうた・挿絵・『手習執行之事』

### 14. 『國語讀本 尋常小學校用』坪内雄藏著

8冊 明治33年(1900)刊(教)

明治19年(1886)、小学校令により義務教育制度が整備・確立されていきます。その一つが教科書の検定制度です。教科書の内容は学年別で児童の発達段階に応じたものになりました。今回の展示資料は、文章が平易で児童の読解力に合った内容になっています。



14. 『國語讀本 尋常小學校用』

### 15. 『武教全書』山鹿素行著

2冊 嘉永2年(1849)刊



15. 『武教全書』櫓立やうの事

### 17. 『小學作法演習書』水野忠雄著

1冊 明治16年(1883)刊(教)

### 18. 『千字文』(梁)周興嗣次韻 1冊 嘉永6年(1853)刊

### 19. 『御成敗式目』北条泰時編 1冊 享和元年(1801)刊

### 20. 『庭訓往来』1冊 貞享5年(1688)刊

### 21. 『古事記傳』本居宣長謹撰 48冊 天保15年(1844)刊

### 22. 『六諭衍義大意』室直清著 1冊 享保7年(1722)刊

### 23. 『小学算法書』高橋矩方輯 1冊 明治7年(1874)刊(教)

### 24. 石板 明治・大正期(教育学部研究室所蔵)



16. 『小学掲圖教授法』教授之図



# II

## 天と地を学ぶ

江戸中期までの日本の宇宙観は地球を中心とした天動説に基づいていましたが、のちに西洋天文学が漢籍として流入し地動説が流布され始めました。一方で仏教天文学はこの西洋天文学の流入に対抗して、明治維新後も天動説の復活に躍起でした。しかしその努力は報われず維新後の日本は地動説が根付いていきました。

江戸中期から明治初期の人たちが、天動説と地動説を中心として宇宙観をどのように学ぶことができたのかを当時の書物からみていきましょう。

### 西洋天文学「天経或問」までの天文学

地動説はキリスト教宣教師によってすでに鎖国前の日本に紹介されていました。しかしその内容は『乾坤辨説』にあるように批判的なものであり、鎖国となった後の日本の宇宙観は、儒教と仏教思想に基づく天動説のままでした。江戸中期の享保15年(1731)には、西洋天文学を取り入れた漢籍『天経或問』に西川正休が訓点を付したものが流布されました。本書もまだ天動説でしたが、鎖国下の日本に西洋天文学を広めるものとなり、後年も版を重ねるほど広く読まれ、『天経或問註解』等の解説書も多く刊行されています。

- 25. 『文明源流叢書』第2「乾坤辨説」国書刊行会編  
1冊 大正2年(1913)刊
- 26. 『本朝天文』源慶安考 9冊 享保5年(1720)刊
- 27. 『天経或問』方密之鑑定 西川正休訓點 游藝子六輯答  
余明汝正續梓 4冊 寛政6年(1794)刊
- 28. 『天経或問』入江脩保叔註詳 3冊 寛延3年(1750)刊



27. 『天経或問』

### 地動説の流布

蘭学書の訳出が進んで西洋天文学が流布されるようになると、江戸後期には『理學入式遠西觀象圖説』のように図解でわかりやすく地動説が述べられるようになりました。さらに、天王星や海王星等の最新の西洋天文学の知識も漢籍として流入するようになりました。

- 29. 『文明源流叢書』第2「曆象新書」国書刊行会編  
1冊 大正2年(1913)刊
- 30. 『理學入式遠西觀象圖説』南阜吉雄口授 草野實養準筆記  
3冊 文政6年(1823)刊



30. 『理學入式遠西觀象圖説』  
刻白爾(コーベル)ガ製スル所ノ天圖

- 31. 『窮理通』帆足萬里撰 6冊 安政3年(1856)序刊
- 32. 『談天』侯失勒著 偉烈亞力口譯 李善蘭刪述 福田泉訓正  
6冊 文久元年(1861)刊

### 仏教天文学の対抗と衰退

急激に広まる西洋天文学に対抗して、江戸後期から明治初期にかけて、円通や佐田介石等の僧侶が須弥山思想に基づく天動説的宇宙観の復活をめざしました。しかし、仏教天文学の活動にもかかわらず、明治初期の小学校用の教科書ですら、地動説を唱えるものとなっています。

- 33. 『佛國曆象編』無外子釋圓通撰 空谷子釋智毅校  
5冊 文化7年(1810)序刊
- 34. 『視実等象儀記 一名・天地共和儀記』初編 佐田介石著  
1冊 明治10年(1877)刊
- 35. 『小學地球儀問答』改正版 庄野欽平著 横関昂蔵閱  
1冊 明治9年(1876)刊



34. 『視実等象儀記』  
視実等象儀

# III

## 文字で伝える——秘伝書・指南書の世界

古来より、様々な事柄、知識が文字や絵・図で書き留めることによって、また口伝で伝えられてきました。書物に残された先人の知恵には様々なものがありますが、一子相伝で伝わったもの、広く流布するために著されたものなど、学びのかたちもまたさまざまでした。

- 36. 『古今文字讀』韋懿雜撰 3巻(存2巻) 昭和18年(1943)写

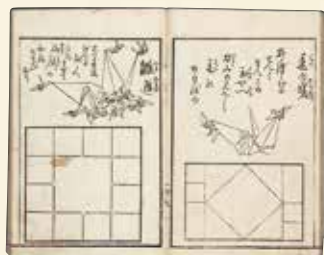
『古今文字讀』は、中国で編纂された、古文篆、籀文篆など21種類のいわゆる雑書体について、書体の用例を添えて解説した書物です。空海の『性霊集』の中で、空海が814年に嵯峨天皇に献上した書物のひとつとして記されており、遣唐使とともに中国に留学した空海が、日本へ伝えたと考えられています。この写しは、昭和18年(1943)に国語学者の山田孝雄が伝本から転写したものです。



36. 『古今文字讀』

37. 『秘伝千羽鶴折形』魯縞庵著 1冊 寛政9年(1797)序

2羽から97羽までの49種類の連鶴とその展開図を示した折紙指南書です。



37. 『秘伝千羽鶴折形』

38. 『花火秘書』1冊 江戸後期写

39. 『菓子類製法覚書』1冊 享保18年(1733)写

40. 『関山先生伝』1冊 天保7年(1836)写

41. 『香道瀧の糸』2冊 享保19年(1734)刊

42. 『茶道要録』3冊 元禄4年(1691)刊

43. 『立華正道集』尋舊子著 1冊 天和4年(1684)刊

立花の指南書。前半は半丁1瓶の立花絵図集。古い手彩色入り。後半は総論・専嫌べき事・真之華の事、以下の伝書全52条が記されています。



43. 『立華正道集』セツ道具出生之圖

44. 『新渡各別流秘伝書』1冊 元龜2年(1571)写

45. 『紅毛外科金瘡療治』2冊 近世中期写

46. 『薬品手引艸』加地井高茂編 2冊 安永7年(1778)刊

47. 『無病長壽養生手引草』山東菴京山著

2冊 安政5年(1858)刊

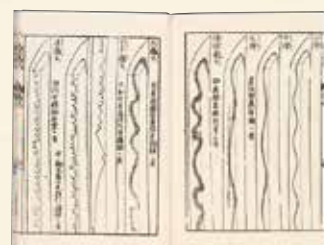
48. 『消息文例』藤井高尚著 2冊 文化2年(1805)刊

49. 『和歌懐紙短冊認様同会序次第口伝注之』

1冊 元文5年(1740)写

50. 『慶長以来新刀辨疑』鎌田三郎太夫編纂

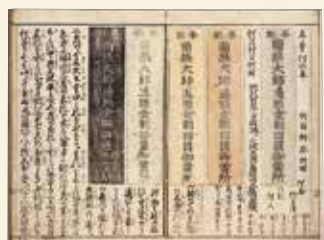
9冊 近世後期刊



50. 『慶長以来新刀辨疑』

51. 『四国道中手引案内』1冊 享和2年(1802)刊

四国遍路の道中心得を記した指南書。寺往来の取り方、携行品、接待の受け方、納札の雛形、船上り切手の取り方、順路略案内等の記事が詳細に記述されています。



51. 『四国道中手引案内』

## IV 学びのころざし

江戸中期から明治大正にかけて、西洋の知識や文化を理解することは今から想像もできない難事業でした。ここでは4人の日本人をとりあげ、その言葉から、新しい知見に挑んだ「ころざし」に触れていただきます。

52. 『解体新書』5冊 安永3年(1774)刊(医)

唯独り斯ノ業ニ於ケル  
専精以テ之ヲ明カスコトヲ得タリ  
誠ニ古ノ人ニ慙ツルコト無シ

～杉田玄白による凡例より～



52. 『解体新書』序図の巻

西洋医学に関する本邦初の本格的翻訳書。『ターヘル・アナトミア』として知られる原書は、解剖学者クルムスが1722年に発表した解剖書のオランダ語版で、蘭方医・杉田玄白らが4年の苦心のすえ漢訳しました。その経緯は杉田玄白晩年の『蘭学事始』に詳しいですが、『解体新書』の凡例からも、この翻訳事業にかける決意や気概がうかがえます。

53. 『泰西本草名疏』3冊 文政12年(1829)刊

(日本の植物に関する西洋の業績に比べ)

豈ニ此土ノ學者  
以テシテ之ニ若カザルベケンヤ  
[どうして日本の学者がこれに負けていられようか]

～伊藤圭介による題言より～



53. 『泰西本草名疏』

尾張の本草学者・伊藤圭介によるツェンペリー『フローラ・ヤポニカ(日本植物誌)』の翻訳再編集版。リンネの近代植物分類学を日本に紹介したことで知られます。長崎遊学時、シーボルトから原著を贈られた伊藤圭介はただちに訳述注解にのぞみ、1年たらずで完成。シーボルトが国外追放となる直前で筆禍の恐れもありましたが、題言からは医師としての使命感、日本における先駆者としての気概をもって刊行したことが読み取れます。

54. 『尾蠅欧行漫録』市川清流著 3冊 江戸後期写

55. 『幕末明治新聞全集』第6巻下『書籍院建設ノ儀ニ付文部省出仕市川清流建白書』

昭和41年(1966)刊(経)

56. 『The world's English lessons』斎藤秀三郎著 訂正再版 1冊 大正8年(1919)刊

57. 『熟語本位英和中辞典』斎藤秀三郎著 再訂版 1冊 大正8年(1919)刊

58. 『和英大辞典』斎藤秀三郎著 1冊 昭和3年(1928)刊